



## 1 ねらい

●VUCAの時代をたくましく、しなやかに生き、よりよい未来社会を創る児童の育成に資する**持続可能な学校教育の在り方**を**産官学一体**で模索する

## 2 事業概要

内容	●「2040年代以降の公立学校の在るべき姿」を模索し、「レポート」を策定・公表
方法	●産官学で <b>コンソーシアム</b> を組織し活動 ● <b>親会議</b> と <b>WG:ワーキンググループ</b> を設置 * WGは、授業づくり・学校づくりの事例を作成し、SNS等を駆使して公表 * 親会議は、WGの進捗を確認しつつ、「レポート」を策定し、イベントで公表
実施時期	● <b>令和6年度～令和8年度の3年間</b> * 令和6年度は基礎研究・組織化の期間 * 令和7年度から事例作成・公表を行い令和8年度に「レポート」を公表し啓発
予算	● <b>令和6年度:</b> ● <b>令和7年度:</b> ※検討中 ● <b>令和8年度:</b>

## 3 主な取組

**目指す児童像**

**自立した学習者**

★OECD Learning Compass2030に依拠

- 社会情動的スキル
- 問題発見・解決能力
- 情報活用能力 等

**個人のwell-being  
社会のwell-being**

2040年代以降の学校

**主な内容**

<b>教育内容の変革</b>	●2040年代以降を見据えた、 <b>持続可能な教育課程</b> の創造 * 文部科学省「授業時数特例校制度」等を活用して再編した教科等の学習 * SDGs、STEAM、PBLなど、今日的な教育課題に学ぶ学習 * ICTを取り扱う教科「情報」、「歴史・文化検定」につながる教科「台東」などの学習
<b>未来の時間割</b>	
<b>教育方法の変革</b>	●体験活動・デジタルをフル活用した <b>真正な個別最適な学びの実現</b> * 体験的な学習、探究的な学習、自己調整学習、反転学習などを基軸とした学習 * 「見方・考え方」の獲得や「思考ツール」の活用、「AARサイクル」を重視した学習 * “Intelligent Amplifier (知性増幅装置)”としてデジタルが“溶け込んだ”学習
<b>未来の授業</b>	
<b>教育環境の変革</b>	●「 <b>本気-熱中-感動</b> 」が実感でき、 <b>誇りと愛着のもてる学校の実現</b> * 心理的安全性が担保された学校生活 * 自律的・自治的な学校生活
<b>未来の教室</b>	●「 <b>働きやすさ</b> 」と「 <b>働きがい</b> 」を実感できる <b>真の働き方改革の実現</b> * デジタル・クラウドをフル活用した校務 * 新たなスクールコミュニティの構築

**コンソーシアム**

●本校に加え、**学識経験者**<sup>\*1</sup>、**地域住民**、**区教委**、**企業**<sup>\*2</sup>等で構成  
\*1: 教育心理学、教育工学、教育方法学、教育社会学、カリキュラム論などの研究者を想定  
\*2: OS事業者、学習支援クラウド事業者、校務支援システム事業者、webサービス事業者等を想定

●円滑な運営に資するため**親会議**<sup>\*3</sup>と**WG:ワーキンググループ**<sup>\*4</sup>を設置  
\*3: “レポート”策定及び取組の進捗確認、WG間の調整等のため、4半期に1回程度実施  
\*4: 多種多様な事例を作成し、積極的に公表するために、複数のWGが同時並行で走ることを想定

**WG例**

- 未来の時間割の在り方WG
- 真正な個別最適な学びWG
- 真正なデータ活用WG
- 教科「情報」WG・「台東」WG
- 校務システムの在り方WG
- ワークスタイルWG など

**主なスケジュールと、経費**

	令和6年度 (基礎研究・組織化)		令和7年度 (事例作成・公表/中間報告)				令和8年度 (“レポート”策定/最終報告)				
<b>親会議</b>	メンバー確定		キック オフ メンバー 確認 趣旨確認	全体会 内容確認 評価設定	“レポート”確認 WG進捗確認	“レポート”確認 WG進捗確認	中間報告 イベント (形式未定) “レポート”案公表 次年度展望 KPI評価	全体会 進捗確認 KGI確認	“レポート”確認 WG進捗確認	“レポート”確認 WG進捗確認	最終報告 イベント (形式未定) “レポート”公表 解散後展望 KGI評価
<b>WG</b>	基調 講演	メンバー 確定・試行			事例作成・公表				事例作成・公表		
<b>評価WG</b>	メンバー確定				評価資料収集				評価資料収集		
●経費											

※検討中

## 4 想定される成果と課題

成果	●“レポート”が台東区立学校の改革の道標となり、 <b>各学校で改革が進展</b> ●台東区の学校教育に対する保護者や区民等の <b>満足度及び参画意識が向上</b>
課題	●本事業の継承の在り方 → <b>NPO法人化</b> も視野に * 台東区版“コミュニティ・スクール”に